

施工説明書

防露式平付ロータンク

※品番は代表的なものを例示

DT-520XZ38

DT-820XZ38

安全のために守ってください！

便器を取り付け、使用時の事故を回避するための注意事項をあげさせていただきます。
施工前に、この項目をよくお読みいただき、事故のないように正しく取り付けてください。

用語の説明

注意 取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。

! 注意

陶器は割れものです。

- 施工前に輸送中の破損がないことを確かめてください。
- 施工後に施工段階での破損がないことを確かめてください。

※破損部でケガをしたり、漏水により家財等をぬらす恐れがあります。

止水栓の調節と施工後の漏水点検を必ず行ってください。

※漏水により家財等をぬらす恐れがあります。

お客様までお渡しするまでに凍結が予想される場合は水を抜いておいてください。

※凍結破損で漏水し、家財等を濡らす恐れがあります。

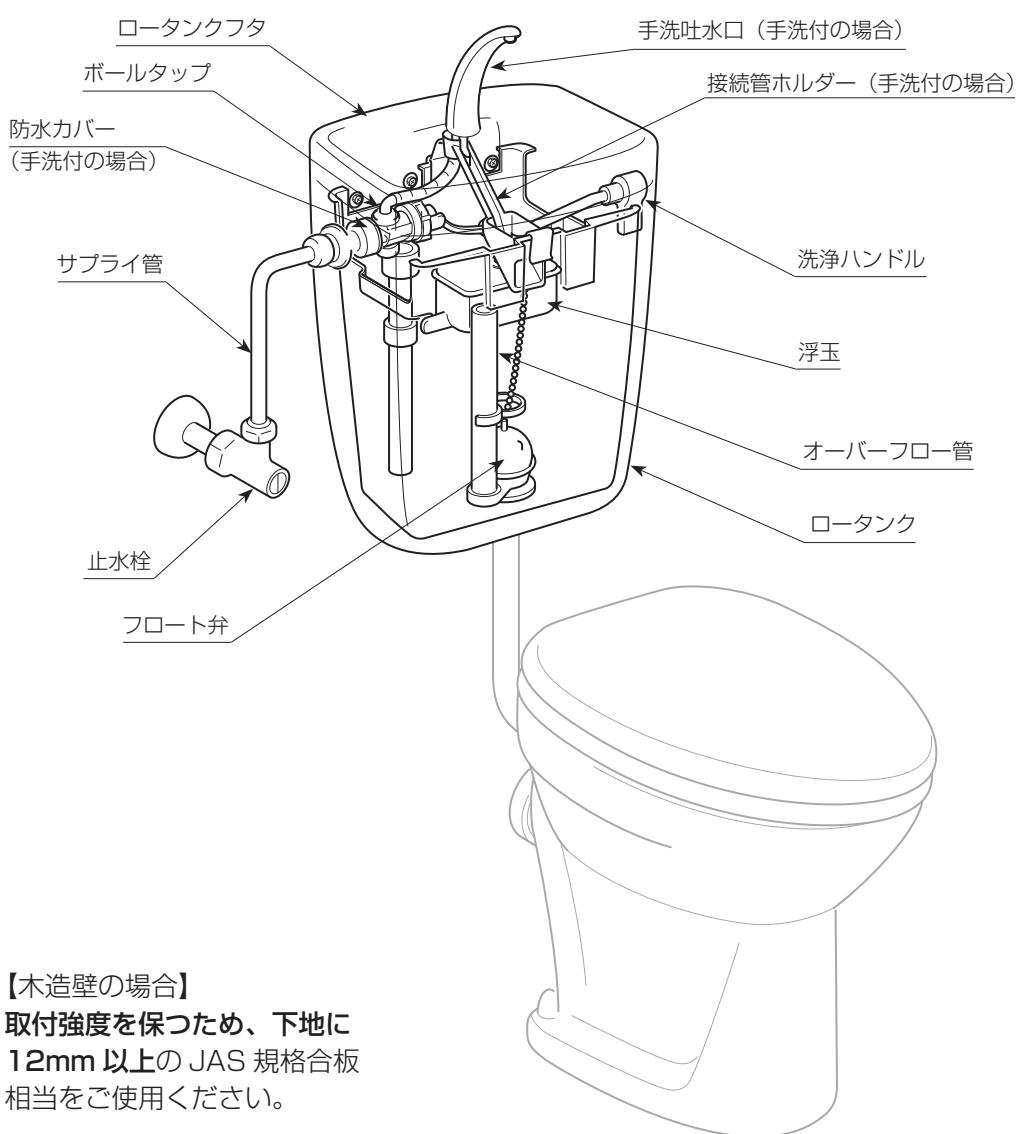
サプライ管の接続は確実に行ってください。

※袋ナットの締め付けが不十分ですと漏水の原因になります。

新築・改修工事後や、水道断水の復旧後は、必ず配管内の空気を抜いてください。

※配管内に空気が混入した状態で給水器具を使用すると、器具・配管の破損や故障の原因となり、ケガをしたり水漏れによって建物、家財などを濡らす財産損害発生の恐れがあります。

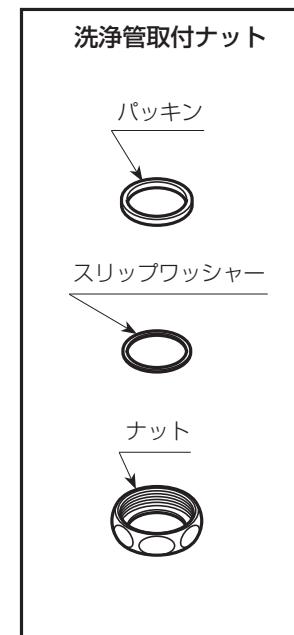
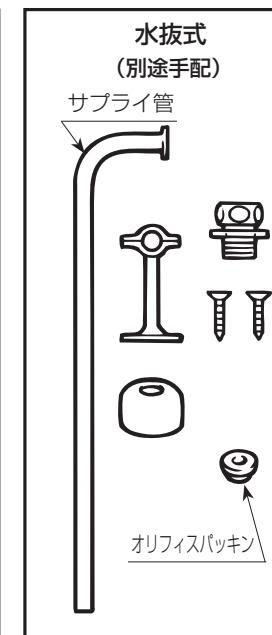
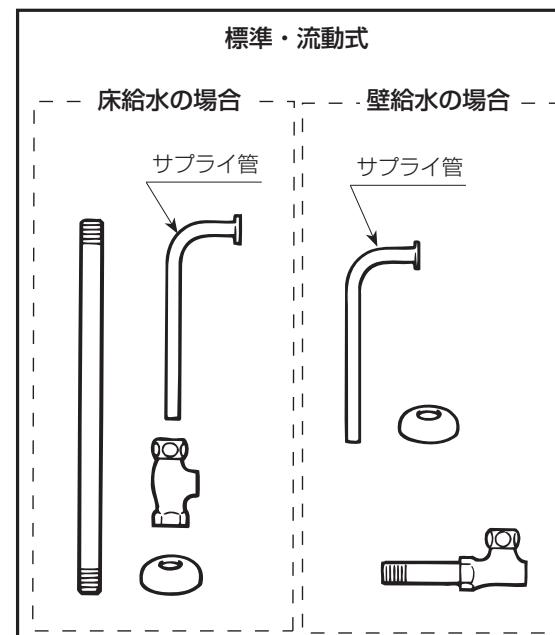
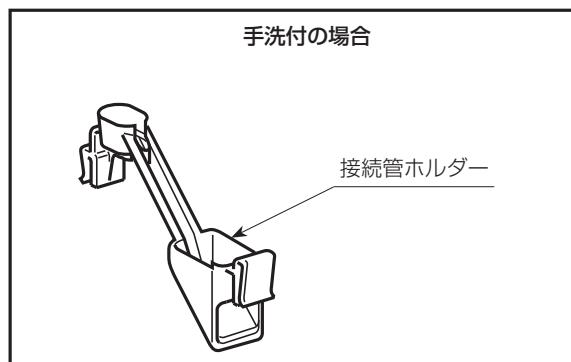
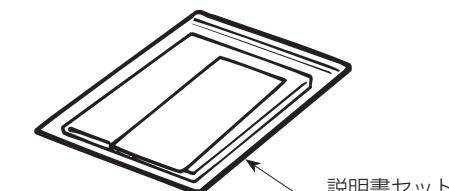
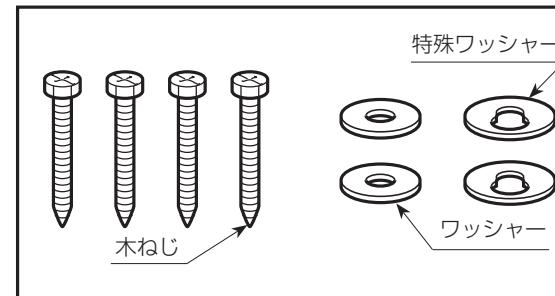
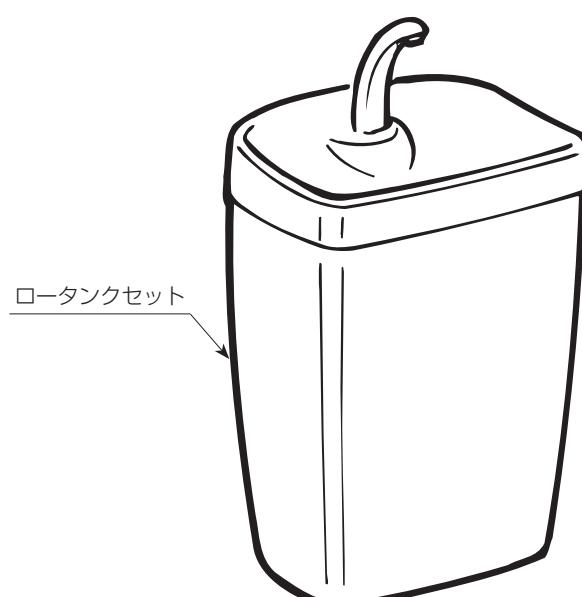
各部のなまえ



【木造壁の場合】

取付強度を保つため、下地に
12mm以上のJAS規格合板
相当をご使用ください。

部品の確認 (梱包内容を確認してください。)



注意

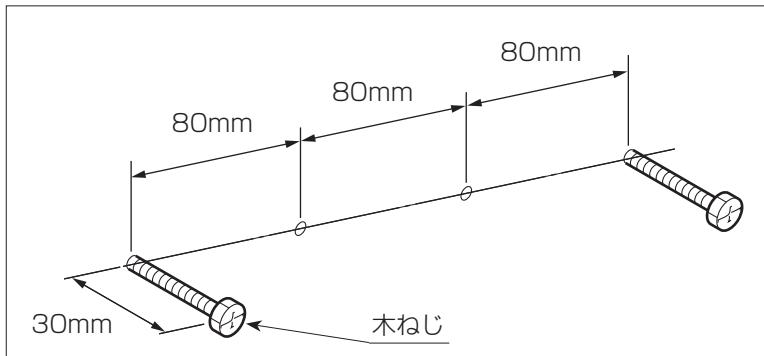
- この施工説明書をよく読み、正しく本商品を施工してください。
- 施工後は必ず試運転を行ってください。
- お客様に必ず本書と取扱説明書や保証書（ヒーター付便器の場合）をお渡しください。お渡しするときは、使用方法をご説明ください。

施工方法

1

ロータンクの取付け

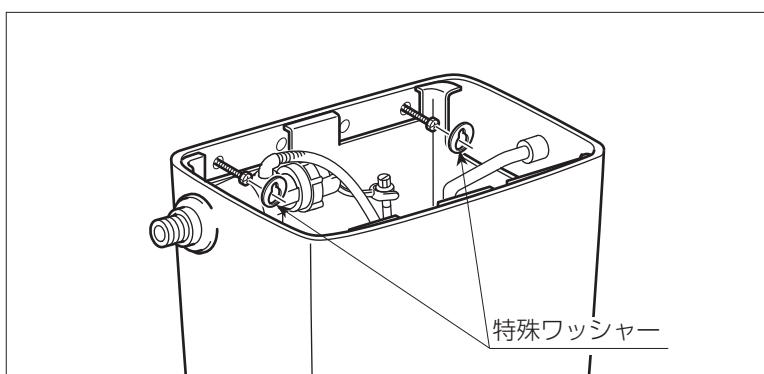
(1) 壁・床仕上げ完了後、右図のように下穴をあけ、両端の下穴に木ねじを30mm程度残すように取り付けます。
壁がタイルまたはコンクリートの場合、下穴（径11、深さ70）をあけ、AYボルト(AY-34WY)を使用します。



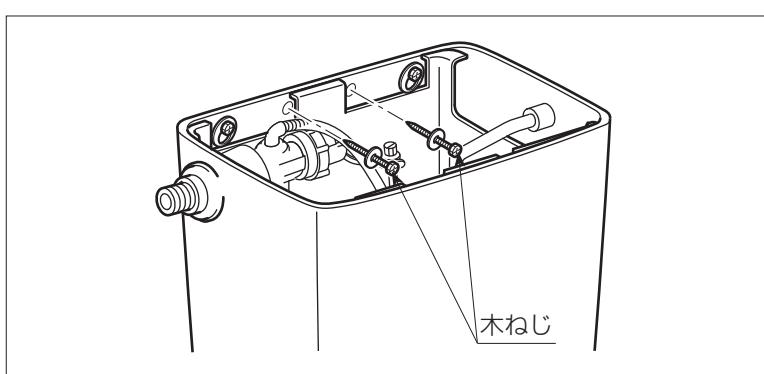
(2) 取り付けた木ねじにロータンクを掛けます。

(3) 特殊ワッシャーの大きい輪を通し、ロータンクを壁に仮止めします。

注意1参照

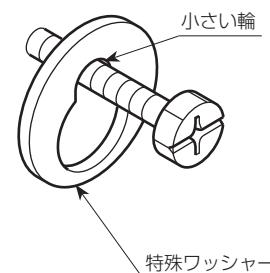


(4) 内側の2カ所を、ワッシャーを通して木ねじで締め付け、両端の木ねじを締め付けてロータンクを壁に固定します。



注意1

木ねじを締め付けるとき、特殊ワッシャーの小さい輪が上になるようにしてください。
※ 特殊ワッシャーが外れる恐れがあります。

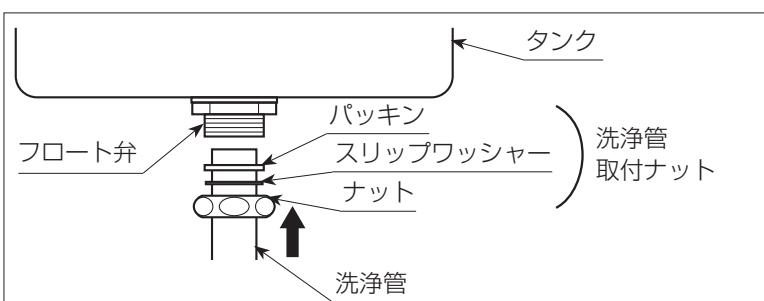


2

洗浄管の接続

便器とタンクを洗浄管で接続します。
タンクと洗浄管接続の際、同梱の洗浄管取付ナットを使用してください。

注意2参照



注意2

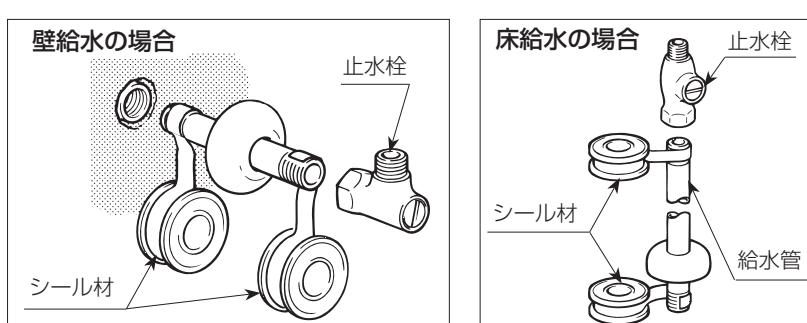
パッキンとスリップワッシャーの取付位置は、逆にしないでください。
※ パッキンがよじれて漏水の原因になります。

3

止水栓の取付け

壁面または床面に取り出した給水管に止水栓を取り付けます。
※ 止水栓を給水管に取り付けるときはねじ部にシールテープ等のシール材を巻き付けてください。

注意3参照



注意3

止水栓が上下に5mm以上動く場合は、動かないように止水栓を固定してください。固定できない場合は、④給水管への接続でサプライ管の代わりにタンク給水ホース(別売品CWA-24)とパッキン(別売品50-15(1P))をご使用ください。
※ 漏水の原因になります。

注意 4

- サプライ管のつば部は絶対に切断しないでください。
- サプライ管の切断は必ずパイプカッターを使用し、切断後は必ず水洗いなどで完全に切粉を取り除いてから接続してください。

注意 5

- タンク給水ホース（品番:CWA-24 等）を接続する際には、タンク給水ホースの袋ナットを強く締めすぎないでください。
※ タンク給水ホースの袋ナットは金属製ですので、強く締めすぎるとボールタップの樹脂ねじが破損し、漏水する恐れがあります。



4

給水管への接続

(1) サプライ管をボールタップに仮組みします。 注意 3 参照

(2) サプライ管を止水栓に合わせ、差込みしろとして 10~15mm 残してサプライ管を切断します。

※ 差込みが不十分ですと、漏水の原因になります。

注意 4 参照

《止水栓を使用する場合》

ストレーナー付パッキン
(逆向きに取り付けないでください。)

ツバ部

袋ナット

サプライ管

止水栓

ボールタップ

水抜式で給水音が高い場合

オリフィスパッキン

袋ナット

サプライ管

支持金具

《止水栓を使用しない場合》

ボールタップ

ストレーナー付パッキン
(逆向きに取り付けないでください。)

床給水の場合

止水栓

シール材

止水栓

袋ナット

テーパーリング

スリップワッシャー

ゴムパッキン

ワン座

ツバ部

止水栓

給水ソケット

シール材

※ 水抜式で止水栓を使用しない場合、サプライ管を支持金具にて壁面に支持してください。

※ 水抜式の場合、給水圧が高くて給水音が気になる場合は、付属のオリフィスパッキンを使用してください。

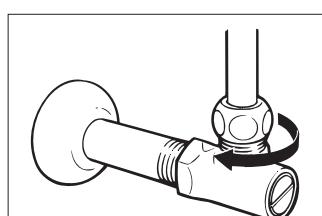
(3) サプライ管を止水栓とボールタップに接続します。 注意 5 参照

サプライ管の接続は確実に行ってください。

※ 袋ナットの締め付けが不十分ですと漏水の原因になります。

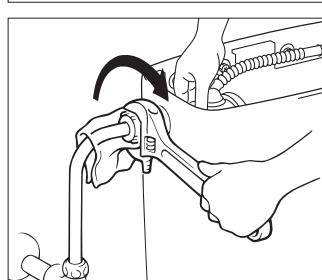
△ 注意

- 止水栓の袋ナットは、締付トルク 10~15N·m {100~150kgf·cm} で締め付けてください。
※ 締め付けが不十分ですと漏水の原因になります。



△ 注意

- ボールタップの袋ナットを締め付けるときは、布でくるんで、その上から工具で締め付けてください。
※ ボールタップの袋ナットは樹脂製ですので、そのまま締め付けると傷がつく恐れがあります。
- ボールタップが回転しないように手で固定しながら袋ナットをしっかりと締め付けます。
※ ボールタップが回転すると浮玉がタンク側壁と干渉して止水不良の原因になります。
- ボールタップの袋ナットの締付けは、はじめに手でいっぱいに締めてから、工具で約 1/4 回転（目安）増締めしてください。
※ 締め付けが不十分ですと漏水の原因になります。

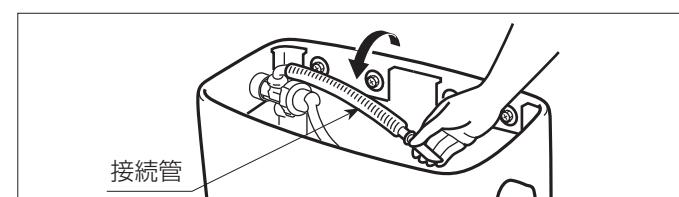


5

止水位の確認 止水栓の調節

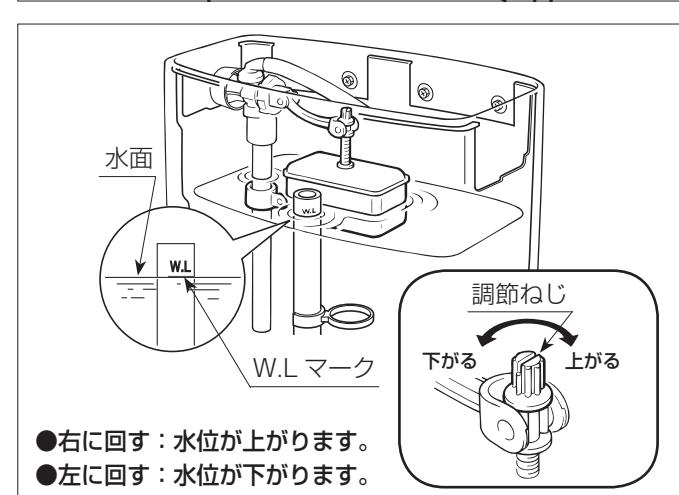
(1) 手洗付の場合は、接続管の出口を下に向けます。

(2) 止水栓を開けてロータンクに通水します。



給水が終わったらタンク内の水位（水面）がオーバーフロー管の「W.L.」マークに合っていることを確認します。

※ 水位が「W.L.」マークに合っていない場合は、調節ねじで水位を調節します。（右図参照）



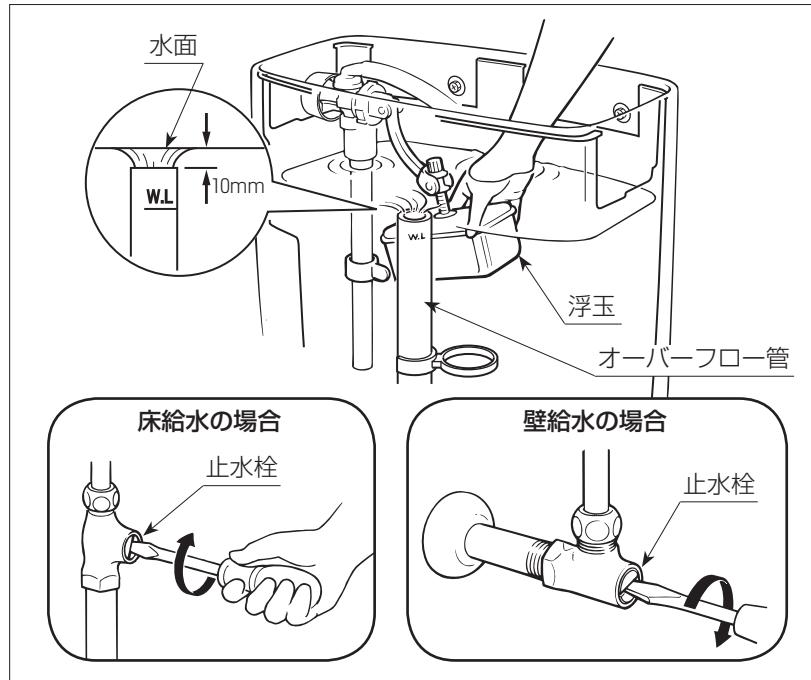
- 右に回す：水位が上がります。
- 左に回す：水位が下がります。

(3) ボールタップの浮玉をいっぱいに押し下げて通水します。

(4) 水面がオーバーフロー管の上面より、10mm以上上がらないように止水栓を回して流量を調節します。

注意6参照

注意7参照



6 ロータンクフタの取付け

ロータンクフタをロータンクに取り付けます。

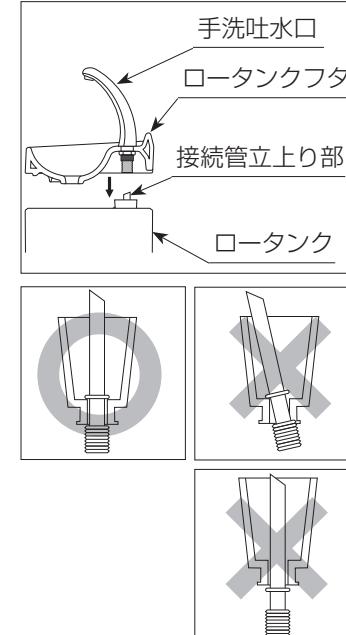
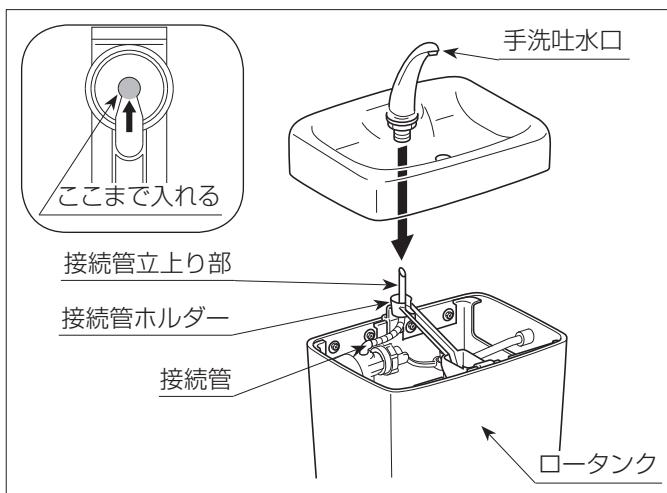
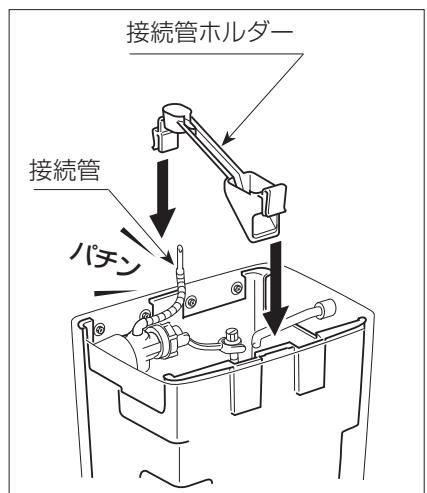
手洗付の場合、手洗吐水口と接続管立上り部を次の要領で確実に差し込んでください。

(1) 接続管ホルダーに接続管を右図のようにはめ込みます。

(2) 接続管ホルダーをロータンクに“パチン”と音がするまで差し込み、取り付けます。

(3) 接続管立上り部を手洗吐水口に差し込むようにしてロータンクフタを載せます。

注意8参照



7 水漏れ点検と洗浄確認

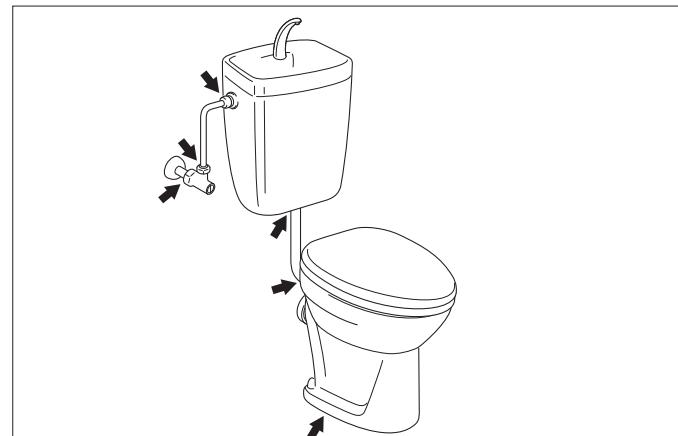
(1) 洗浄ハンドルを操作して便器洗浄を数回行い、各接続部に漏水がないことを確認します。

同時にフロート弁の開閉、ボールタップの動作、洗浄ハンドルの戻り具合等、ロータンク内部金具に不具合がないことを確認します。

注意9参照

(2) 便器鉢内に長さ760mmのトイレットペーパーを丸めたものを7個入れ、これが1回の洗浄で排出できることを確認します。

もし、1回で排出できない場合は、フロート弁やその他の内部金具を点検します。



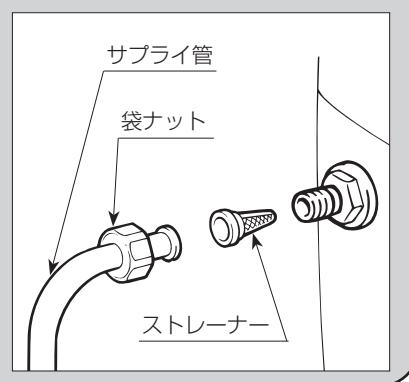
水の出方が悪い場合は、ストレーナーを掃除してください。

水の出方が少なくなってきた場合は、ストレーナーにゴミが詰まっていることがありますので、止水栓を閉じてストレーナーを掃除してください。

掃除の後は、施工方法⑤に従って止水栓の調節をしてください。

*ストレーナーはゴミアカによる止水不良を防止するために、ボールタップとサプライ管の間に付いています。

*袋ナットの締付方法は施工方法④を参照してください。



お客様にお渡しするまでに凍結が予想される場合の注意

お客様にお渡しするまでに凍結が予想される場合は水を抜いておいてください。

*凍結破損で漏水し、家財等をぬらす財産損害発生の恐れがあります。

(1) 給水栓の元栓を閉めて、ロータンクへの給水を止めます。
(寒冷地用水抜式は、室内の水抜栓を操作します。)

(2) ロータンクの洗浄ハンドルを操作して、ロータンク内の水を抜きます。

(3) 電源プラグをコンセントから抜きます。

